資料３

「性別を理由にモヤっとした言葉」選定結果（子ども部門）

得票数		番号	モヤっとした言葉	理由	学年・年代
3	掲載	7	女子なのに制服ズボンなの？	女子もズボン履くのは駄目じゃないのに。	中１
3	掲載	12	男の子の景品はコレ、女の子の景品はコレね	子供会のお楽しみ会で男女に景品が分けられていて、私は男の子の景品が欲しかったのに女の子だからと選べなくて残念だったから。	小６
3	掲載	16	女の子なのに料理もできないの？	誰でも料理ができるわけでは、ないのに 女の子だからと決めつけてほしくない。	中２
3	掲載	25	男なんだから日焼け止めなんていらないでしょ。	別に焼けたくないから塗ろうと思っているのになんでそこに性別をわざわざ入れてくるのか不思議に思ったし、少し不愉快になったから。	中３
3	掲載	26	男の子なのにどうしておりがみしてるの？	モヤっとした理由は、べつにおりがみしてもいいのになんでだめなのと思ったこと。その時の状況は、ただおりがみをしていただけ	小４
2	掲載	3	女の子なんだから、もっと上品に食べてよ	外食でご飯を食べている時に言われた。女の子なんだから、アレしなさい、コレしなさいと言われるのはすごく嫌だった。弟はガツガツ食べているのに、なぜ自分だけ上品に優雅に食べなきゃいけないのかな思った	小６
2		20	女の子はピンクの歯ブラシね！	学校の歯磨き大会の時に歯ブラシがもらえたけど、ピンクが多かったから女子はピンクって勝手に決められてモヤっとした　水色と黄色もあって本当は黄色がよかったのに	小５
2		28	そっちの服、男っぽいよ。Ｋは女の子なんだからこっちにしなさい。	女の子でもその服が着たかったから。	小４
1		15	男のくせにおしゃべりだな	男が喋りたいことを喋って何が悪いんだって、思った。	中２
1		18	女の子なんだから、お上品に食べなさい！	「女の子だから」っていうのが、少しもやっとしました。じゃあ男の子なら下品に食べていいの？と思ってしまいました。	小５
1		27	女子なんだからもっと少なく食べなさい。	理由：女子でもたくさん食べたい子がいるのに、性別によって食べる量を決めさせるのは不平等！　　状況：学校で給食をおかわりしているとき	小６
0		17	女子なのに給食おかわりするの？	休み時間に給食のデザートをおかわりできてうれしかったことを話していたら友達に言われた言葉。 おいしいものを食べること、みんなで楽しく給食を食べることに性別は関係ないし、誰でもおかわりしたらいいと思った。	中２

「性別を理由にモヤっとした言葉」選定結果（一般部門）

得票数		番号	モヤっとした言葉	理由	学年・年代
7	掲載	2	女じゃ話にならん！男に変われ！	仕事中、ご意見があって来ていただいた方へご意見を伺おうとしたところ、最初から耳を傾けて貰えず、言われた言葉です。 性別を理由に他の職員に対応を変わっていただくのも忍びなく、私が対応したい旨を申し上げたところ、女じゃダメだ！と再度机を叩かれたため、男性職員へ変わったところ滞りなく対応を終えました。 説明内容としては私が伝えられるものも男性職員が伝えていたものも変わりないのに、私の対応態度がどうという以前に女だからということで話すらさせて貰えなかった事にモヤモヤしました。	20代
5	掲載	6	嫁(女)なんだから、姑の介護をしろ	主人の母親なのに、女が介護をするのが当たり前のように言われた。	50代
5	掲載	9	男がやる仕事じゃない	ショッピングモールを知人男性と訪れた際、アパレルショップの店員の男性を見て、その知人男性が「服を売るのなんて男の仕事じゃない。そんな女でもできる仕事を男がやるべきじゃない」と言った事に女性である私はとてもモヤっとした。	40代
5	掲載	21	奥さんのための家事スペース　旦那さんのための書斎やガレージ	家造りのときの設計士さんの言葉。私のためのスペースは家事用で、夫のためのスペースは個人の趣味の場所だったこと。	40代
5	掲載	23	母親なんだから、飲み会には来るな。家で子どもの面倒みてろ。	言った本人だって父親なのに飲み会に参加してる。家事・育児は母親がすべきというアンコンシャスバイアスであり、それを押し付けてきた為。	30代
4	掲載	5	男なのに育休取るの？	待望の妻の妊娠。検査薬の線を二人で何度も見返して、涙が出るほど嬉しかった。 でも喜びも束の間、苦しいつわりで妻は起き上がれなくなった。家で倒れている妻を横目に、私は夜遅くまで仕事に打ち込んだ。妻の支えになれない申し訳なさと、仕事をしないといけない重圧。板挟みだった。 体調を崩した妻が入院したこともあった。そんな時、一番に相談に乗ってくれたのは、他でもない上司だった。だから信頼していた。この人なら、わかってくれると思っていた。 お腹の中の赤ちゃんは、すくすくと育っていった。出産後、せめて1ヶ月だけでも、苦しいつわりを乗り越えた妻と、待望の我が子のそばにいたい。家族を大切にしたい。そう思って、ある日、上司に育休取得の相談をした。 喜んで送り出してくれると信じていた。 でも返ってきたのは、「え？男なのに育休取るの？みんな迷惑するのに？」の一言。 その場で何も言い返せず、ただ頷いてしまった自分が情けなかった。一番信頼していた人に、一番言われたくない言葉を言われた。悲しかった。悔しかった。苦しかった。 それでも、私は上司の反対を押し切り、歓迎されないまま育休を取得した。 今、我が子の寝顔を見るたび。妻が楽しそうに我が子との日常を語る姿を見るたびに思う。あの時、押し切ってよかった、と。	30代
4		1	昇進は旦那さんに任せておけばいいんじゃない？	産休に入る前、職場復帰のタイミングやキャリアについて上司に相談した際に言われた言葉です。昇進したい気持ちがある一方、出産育児のためにしばらく職場を離れるため、今後のキャリアにどのような影響があるのかを前向きに相談したつもりでした。家庭が忙しくなるんだから仕事はそんなに無理しなくていいんじゃないかという意図だったようですが、女は大人しくしておけというように聞こえてモヤッとしました。	30代
4		22	お茶汲みとか庶務雑務は女の人の仕事やんか。	とある企業の支店の総務部で働いています。 最近、部署内で業務分担の変更がありました。(わたしは育児勤務のためもともと時短勤務をしていましたが、最近転勤してさらに通勤に時間がかかるようになりました。) 支店総務部には、主に庶務管財、人事、経理で仕事の割り振りがあり、残業できない私のサポートの意味も含め、フットワークの軽い20代の男性(部下)とペアになり、私たちは庶務管財の仕事を拝命されました。 その彼はもともと庶務管財以外の仕事をしていたこともあり、能力も高く、よその部署からも引っ張りだこです。 庶務管財の中には細かい雑用がたくさんあります。基本的には派遣の方が対応してくださってますが、不在の時はチームで動きます。 このセリフは、他の部署の目上の方から、彼がお茶汲みや雑用もあるこの分担になるのはもったいないという意味で言われた言葉です。 そのあたりの仕事は女の人がやりゃいーじゃん、と言われ、なんとも悲しい気持ちになりました。	40代
3		4	どうせ、あんたは嫁に行くんだから	10歳前後位から、親戚が集まるような時にお茶出しなど細々とした手伝いを強要された　祖母や叔母さんなどに、家のしきたりを私に教えたとしても無駄だよねと嫌味を言われた　もしも将来嫁に行かなかったら、どうなるんだろう？と不安になり、長男の兄にはお茶出しの手伝いは免除で、男女差で不利益を被ったと思った	40代
3		8	「お母さん、お仕事と両立してすごいですね」。隣にいる夫は、一度も言われたことがないそうです。	保健師との面談、保育園、小学校、児童館、病院、ありとあらゆる場所で言われる。	30代
2		10	男の人に余り仕事を休ませるのは良くないでしょ	子供が熱を出してしまった時どちらが仕事を休むか相談した時に第三者に言われた言葉。お互いフルタイムで会社での立場は同じなのに何故ともやもやしました	40代
2		11	子どもの小学校のPTAの役職の「母親代表」	子どもの学校に関わる事は母親がやるべきって考えなのでしょうか?子供にはジェンダーレスとか教えてる小学校が親にはPTAで母親代表って呆れました。	40代
2		13	女の子なんだから勉強なんてできなくてもいいのよ	父方の祖母に会った時に勉強を頑張っていると言った時にその言葉を言われた。 今頑張っていることに対して否定的な言葉で男女関係ないのにと思った。	10代
2		14	女のくせに愛想が無いな	女だっていつもニコニコしていられない。男だったら愛想がなくてもいいの？	50代
2		24	女は腰掛け仕事だから気楽でいいな。	独身の頃、知り合い(男性)と転職の話をしていた時、「男は家族を支えないといけないからいい加減に仕事決められなくて辛い。女は腰掛け仕事だから(真剣に仕事選ばなくても大丈夫だし)気楽でいいな。」と言われた。 確かに男性の収入がメインで、女性はサブ(パート)として家計を支えるパターンは多い。でもそれは核家族が増える中で、女性が家庭の状況に合わせて家庭と仕事を両立するためにやっていることで、何も考えずに気楽にやっているわけではない。 社会全体の仕組みが変わって、男性がもっと家事や育児、介護に参加すれば、女性もライフステージに関係なく、生涯正社員で働く余裕が生まれると思う。 結婚してから何度もライフステージの変化で働き方に悩んできたので、その度にこの言葉を思い出してモヤモヤしてしまう。	40代
1		19	女の子なのに　お花に興味がないんだね	母親に言われた一言。 母は花が大好きで昔から花の世話を好んでしていたのですが、当の私はそんな母の元に育ったものの　花を育てたり特別好まない姿を見兼ねて母から出た一言です。	40代